

1. 単元名 「みんなでそだてよう～なやこばたけのやさいきろく～」

2. 単元の目標

- 植物を継続的に栽培する活動を通して、植物が生命をもっていることや成長していることに気付くことができる。 (知識・技能)
- 植物を継続的に栽培する活動を通して、植物の変化や成長の様子に関心をもって働きかけることができる。 (思考・判断・表現)
- 植物を継続的に栽培する活動を通して、生き物に親しみをもち、大切にしようと思いのこころでお世話することができる。 (主体的に学習に取り組む態度)

3. 単元について

(1) 教材観

本単元では、「ぐんぐんそだてわたしの野さい」を教材として取り上げる。

1年生の時に育てたアサガオの経験や給食の残食(苦手な野菜)について想起させ、植物を育てる大変さや楽しさから、野菜を育てている人について考える。実際に野菜を育てたり収穫したりする活動の中で、自分の思いや楽しさを感じながら、活動への意欲を高めていくことができる。同時に、これまでの栽培経験や野菜関連図書を読んで、試行錯誤しながら、野菜を育てたり、他の野菜と比べたりして、観察や世話の仕方を自分なりに工夫する力を養うことができる。

また、野菜が生命をもち成長していることに気付くだけでなく、活動を通して自分自身も成長しているという喜びや、自分の力で栽培することができたという自信をもつことも期待できる。誰かに育てる喜びを教えたり、野菜を育てて販売している人の気持ちを考えたりして、さらに相手意識をもち、教科横断的な事後の活動に繋げることができるようになるよさがある。

(2) 児童観

本学級の児童は、第1学年において、生活科で一人一鉢のアサガオを観察したり育てたりする活動をしてきた。この活動を通して、植物の観察や育て方を学んできている。また、創意の時間を通してさつまいもやじゃがいもを育てる活動にも取り組んできている。さらには、家庭菜園で野菜を育てている家庭もあり、野菜を育てることへの活動意欲をもっている。

また、身近なことから課題を見つけたり、教師や友だちとの対話を通して考えをもち、話合うことができたりすることができるようになったこの期に本課題を取り上げる意義は大きい。

(3) 指導観

本単元の指導に当たっては、まず、給食の残食について提示する。このことを通して、一生懸命野菜を育てている人がいることに気付かせる。そのことを基に、人々の思いを想像させたり、廃棄される野菜の行方について考えさせたりして、人々の思いや自然環境問題への課題をもたせたい。また、昨年度取り組んでいたアサガオを育てる活動を想起させ、野菜を実際に育てることへの意欲をもたせたい。

次に、野菜の育て方について見通しをもたせる。今まで経験してきたことを振り返らせたり、野菜の育て方で知っていることを話したりして共有する。また、共有した情報から、その情報が本当に正しいのか、全ての野菜に共通していることなのか、天候や環境によって育て方を変えるのか、世話の仕方について課題意識をもたせ、実際に育ててみたいという気持ちをもたせたい。尚、野菜を育てる際は、同じ野菜同士で成長過程の違いを知るため、アサガオ同様同じ野菜（ミニトマト）を一人一鉢で育て、他の野菜の育て方の違いを比べるためにグループに分かれて、そのほかの野菜を育てるようにする。また、各野菜に長期間愛着をもたせて育てていくために、野菜に名前を付けさせたり、名前札や畑の看板を作らせたりして、オリジナルの畑で自分たちのものであるという意識を高めさせ、責任をもって活動に取り組ませるようにする。

そして、できた野菜とお店で並んでいる野菜を比べさせ、野菜の見た目について考えさせる。その上で、野菜を売って生計を立てている農家の人にインタビューをし、見た目も味にもこだわった野菜の育て方を学ぶ機会を設ける。また、学んだことを実感するために、冬野菜でその学びの効果を実感させるようにする。それらの活動を踏まえ、野菜の美味しい育て方の発表づくりをする。

さらには、これらの活動を通して、野菜を育てる苦労さや、苦労してできた野菜を感謝の気持ちをもって食べられるようにしたり、他の教科でこれらの活動を広げられたりするようにする。

(4) ESDとの関連

・本学習で働かせるESDの視点（見方・考え方）

多様性・・・野菜を育てるには、いろいろな育て方があり、天候や時期、環境によって様々な形になるということ。

相互性・・・野菜は水やりをしたり、日に当てたりして自然の力と人の力で成長しているということ。

責任性・・・自分で毎日継続して育てたり、みんなで役割分担し協力して育てたりすることで、私たちは食べられるということ。

・本学習で育てたいESDの資質・能力

新たな方法を考える力（Critical Thinking）

なかなか、野菜が育たないときに、どうすればよいか本を使ったり、育て方を聞いたりして考える。

コミュニケーションを行う力

野菜を育てる当番を決めたり、育て方の案を出し合ったりして、自分の意見を伝える。

・本学習で変容を促すESDの価値観

自然環境・生態系の保全を重視する価値観

野菜を育てるには、今ある環境を守り、環境整備をしていかなければならない。

幸福であることを大事にする価値観

野菜を食べられているのは、人々の苦労があり、好き嫌いせずに感謝の気持ちをもって食べる必要がある。

・達成が期待されるSDGs

1 2 つくる責任つかう責任

1 5 陸の豊かさを守ろう

4. 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
<p>①自分の育てている植物が成長していることに気付いている。</p> <p>②異なる植物にも、同じような特徴や性質があることに気付いている。</p>	<p>①1年生での経験や野菜関連図書を基に、植物の成長の様子を思い描きながら世話の仕方を決める。</p> <p>②友だちと自分の世話の仕方を比べながら、自分の植物に適した世話の仕方を決めている。</p>	<p>①育てている野菜の状況に応じて、野菜関連図書をつかって、世話の仕方を変えようとしている。</p> <p>②植物を育てることのよさを実感し、これからも継続的に生き物を関わろうとしている。</p>

5. 単元の指導計画（全20時間）

次	主な学習活動	学習への支援（・）	評価（△） 備考（・）
1	<p>○給食の残食について課題意識を向け、野菜を育てている人について考え、植物を育てることへの見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食べられる野菜もあるけど苦手な野菜の方が多いな。 ・どのくらいの実がなるのかな。 ・機械をつかって育てているのでは。 ・育てるのは大変だから残してはいけない。 ・アサガオの時は～だった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・予め教室内に野菜関連図書を設置しておき、野菜への関心を高めておく。 ・残食物を写真に残しておき、視覚的に想起させやすく提示する。 ・様々な野菜の写真も提示し、いろいろな野菜があることに興味をもたせる。 ・苦手な食べ物があること自体は否定せずに、話しやすい雰囲気の子ども素直な気持ちを出させる。 	△イ①
2	<p>○野菜の育て方について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大きくなったら支柱を立てる。 ・畑で育てたり鉢で育てたりする。 ・わきめをつむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アサガオを育てたことやじゃがいもなど家庭菜園での様子を想起させ、気軽に話し合えるよう、ペアで取り組ませる。 	△イ①
3	<p>○実際に野菜を育てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・何種類か育ててみたい。 ・一人でいくつも育てるのは大変そう。 ・ミニトマトは苦手だな。 ・初めて知った育て方があったよ。 ・野菜によって実のなり方がちがった。 ・なった実の大きさがバラバラだったよ。 ・育て方やなった野菜を食べてもらいたい。 ・一生懸命育てたのになんで小さいんだろう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・同じ野菜同士で成長過程の違いを知るため、同じ野菜（ミニトマト）を一人一鉢で育て、他の野菜の育て方の違いを比べるためにグループに分かれて、そのほかの野菜を育てるようにする。 ・野菜に愛着をもたせられるよう、野菜に名前を付けさせたり看板を立てたり、畑にオリジナリティを加える。 	△ア① △ア② △イ② △ウ①

4	<p>○採れた野菜と店頭で売られている野菜を比べ、違いを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お店の物は全部形が整っている。 ・自分たちも一生懸命育てたのになんで形がよくないのだろう。 ・教えてもらった方法を教えたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・見た目や味などに焦点を当て、どこが違うのか付箋に書き、視覚的に捉えやすくする。 ・お世話の様子を記録した写真を提示し、これまでの世話を振り返りやすくする。 	△ウ②
5	<p>○野菜の育て方を聞いてみよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水やりは、毎日同じではいけないのか。 ・実を大きく育てるためには、最初になった実を先に採ってしまったほうが良いことを知ったよ。 <p>○農家さんをおいもパーティーを開こう。(学校行事との関連)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・冬野菜でもう一度育てていたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・野菜を育てて、販売しているGT(地域の農家さん)を招き、環境に合った育て方やコツを教えて頂き、育て方の違いに気付かせる。 ・直接インタビューさせ、農家さんの思いに寄り添えるようにする。 	△ウ②
6	<p>○冬野菜を育てよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夏よりも寒いからビニールを付けた方がいと聞いたよ。 ・夏野菜と同じやり方もあるんだね。 ・野菜の育て方を教えてあげたいな。(うまく育たないとき) <p>農家さんに育て方を聞いてみよう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・環境整備では、用務員さんにも手伝ってもらい、環境を整えておく。 ・天気への見通しをもたせるために、子ども新聞の活用もさせる。 	△ア① △ア② △イ② △ウ①
7	<p>○野菜の育て方を伝えよう。</p> <p>活動の振り返り・農家さんの話</p> <p style="text-align: center;">▽</p> <p>国語科「こんなもの、見つけたよ」</p> <p>算数科「ひょうとグラフ」等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・来年度の2年生がおいしい野菜を育てられるといいな。 ・大変だったけど、楽しかったな。 ・作る大変さもつたえたいな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・相手意識をもって発表できるよう、一人一つ発表できるよう、発表形式は選択式にする。 ・タブレットを使い、写真やグラフで表しやすくする。 ・夏野菜と冬野菜の世話の仕方を比べやすくするため、写真を提示する。 ・農家さんの技法を掲示しておき、振り返りやすくしておく。 	△ウ②
8	<p>○振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・野菜を育てるのは大変だったな。 ・一つ作るのに、こんなに時間がかかるんだ。 ・作ってくれている人の気持ちを考えて、給食は全部食べきるようにしたいな。 ・来年はもっとおいしい野菜を育ててみたいな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・成果と課題を視覚的に捉えやすくするため、色を分けて板書していく。 ・野菜を育ててきた活動に、全員が満足感を得られるよう、野菜を食べた学校職員や保護者からの感想を提示する。 ・今後の活動へと発展させるために、人々の働きや生き物の生態に着目させるようにする。 	△ウ②